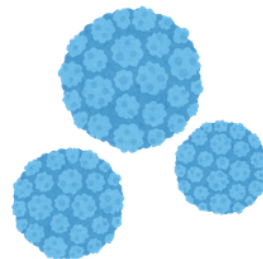


13

ノロウイルス感染症
について医療の
小ネタ

かつて「白色便性下痢症」という病名がありました。「仮性コレラ」などという物騒な名前と呼ばれていたこともあります。その原因ウイルスは、電子顕微鏡の画像から small round shaped virus 略して SRSV と呼ばれていました。まんまですね笑



のちにノロウイルスと名付けられたこのウイルスの直径は30nmしかありませんでした。そのため発見・同定が遅れたのでしょう。

インフルエンザにしても新型コロナウイルスにしても、人間をターゲットとする主なウイルスの直径は大体100nmくらいあります。これくらいの大きさだと人間の免疫監視体制の網を潜りにくく、1000個単位の感染をきたさなければ発病しません。しかし体積としてはこれらのウイルスの30分の1以下のノロウイルスは、わずか30個が体内に入るだけで発病すると言われています。患者さんに「このウイルスはとても伝染力が強いので、なるべく嫌な人のそばにいてください」などと言って師長さんに怒られていたことを思い出しました。

ノロウイルスが注目されるきっかけとなったエピソードがあります。ホテルの客が残した吐しゃ物のそばを通ったスタッフが発症し、その後の疫学調査で、スタッフは吐しゃ物にも吐いた宿泊客にも一切接触していないことが判明しました。ということは接触感染も飛沫感染も否定されることになります。これを契機として、「一度体外に出た感染源」がエアロゾルとして舞い上がり、感染が広がるという経路が認識されることになりました。

新型コロナの拡大に伴い、当初は患者の装着した人工呼吸器などから二次的に感染を起こしたような場合に限定して用いられてきた「エアロゾル感染」という医学用語が、誤用に誤用を重ねて、本来のメカニズムとはかけ離れた意味に用いられていく経過は皆さまも良くご承知だと思います。